



<http://www.kana-pie.com>

untitled

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉青年経営者会通信

contents

「福祉業界への提言」～衆議院議員河野太郎先生との対談～	・・・ 1・2・3・4面
21年度神奈川県社会福祉青年経営者会の役員紹介	・・・ 5・6面
施設紹介 社会福祉法人 松宝苑 特別養護老人ホームくすの木（茅ヶ崎）	・・・ 7面
活動報告	・・・ 8面

社会福祉の今後と若手経営者に求められること

衆議院議員 河野太郎先生（神奈川第15区）と語る

11月2日、衆議員議員河野太郎先生の事務所を訪ね、「社会福祉の今後と若手経営者に求められること」というテーマで赤間会長・田代副会長との座談会が行われました。社会福祉業界における問題点のみならず、先の総選挙、また河野先生が「若手から変えなければ！」という思いで立候補された自民党総裁選挙にいたるまで幅広くお話を伺うことができました。 （記録：総務広報委員）

河野太郎衆議院議員：河野 赤間会長：赤間 田代副会長：田代 と表記させていただきます。

赤間：本日はお忙しい中ありがとうございます。私どもの携わる福祉業界は、その広域性・特殊性、また各種法令・制度により様々な規制のある業界だと先生もご承知の通りだと存じます。今日は、我々福祉業界の若手経営者が常日頃思い悩む今後の福祉の方向性、また国民が望む福祉制度などについて、日頃国政の場で御活躍される河野先生の思いを伺いに参上しました。

河野：ピラミッド型の人口構成がすすむ中、益々公費を投入していかなければならない分野だと考えます。ただし国政に携わる立場からは、東京などの都心から過疎地に至るまで事情の異なる地域を、ひと抱えに拘り定規なルールでしぼる現状もいかがなものかと思う。福祉分野について国と地方のどちらにまかせるのが良いかという議論があるが、現状では特養待機者、また待機児童の問題はひどくなる一方だ。「中央の権限

維持のために？」間違っているよね。地域によってもっと柔軟にやらなくては。我々も省みなければならないが、利権を抱えている官僚を追求する大臣が必要だと思う。

社会福祉法人のあり方だが、それぞれ事業をどんどん展開していくべきだと思うが、今の制度の中では困難ということも承知している。社会福祉法人だって利益をあげても良いのではないかな。その利益を更なる福祉施設へ投下していけば、株式会社にやらせるのは儲けに走るからダメだと言うが、福祉産業だけ社会主義でやっていくのはどうなのか。東西冷戦における東側は、サービス・質の



向上を求めない産業形態の中でやがて西側の経済発展の前に倒れていった。

先日、70歳のお年寄りが90歳の親を介護している「老老介護」の現場に立ち会った。その方は施設に入ることを最初から諦めているようであった。こういった問題の解消のためにも、福祉施設を市街化区域にしかつくってはいけないという制度は即刻改めた方がよい。調整区域につくれば同じ資金でいくつの施設が作れるのか。またユニット化も現状に合っていない。これだけ困っている人がいる中では、例えばいづれ個室に転換できるような設計にしておけばよい。今現在の問題にもっと目を向けていくべきでしょうか？

赤間：日本各地の福祉施設経営者とおつき合いの中で、確かにそれぞれの思惑や困難と感じている点のバラツキを感じます。ひとつ言えることは、現在の報酬制度、また補助金制度の中では現状の施設を維持するだけでも厳しい状況があります。

河野：ルールをガラッと変えないと。小手先の改革では難しいですね。

赤間：現場で働く人の確保に困難を抱える中で、質の高いサービスを提供していかなければならない。一方で、利用者は待っていればドンドン入ってくる状況では競争原理は働きにくいと感じています。

河野：福祉産業は、そのニーズの高さから国の最も大きな成長分野のひとつと考えます。また常々言うが、働く人のキャリアパスをつくってあげなければ職員個々の将来を創造させてあげることができない。男性の寿退社がまかり通るという話も聞きます(一同苦笑)。現況では経営者だけが業界の行き先を一生懸命考えて、他は腰掛けになってしまっている感もある。一法人一施設の形態はその意味で健全と言えるのか？

赤間：行政指導による一法人一施設になっている側面もあります。土地柄にもよるのですが、施設展開しよう、新しいことをやっという外部から白い目で見られるという業界のクセもあります。

河野：福祉で搾取は言語道断だが、適正な利益をあげて次のサービスに投下すればよい。人件費を抑えなければやっていけない分野では斜陽業界である。「福祉だって利益が出る」という構造にし、競争原理を働かせて人件費を上げられる産業にするべきだ。またそのことが全体の雇用の確保にも繋がるでしょう。

田代：「福祉にあこがれて」という人をもっと生み出さなければならない。例えですが、飲食業界で成功した方が格好良くテレビで紹介され、「こうなりたい！」という若者が増えます。その結果業界が盛んになり、益々同じようにあこがれる若者が増える。今はなくなりましたが、ベルファーレの折口さん、またワタミの渡辺さんなどが、やり方に賛否ありますが、若者が憧れるビジネス像をつくりかけました。一方、私ども社会福祉法人は旧態依然「出る杭は打たれる」ところがあります。

河野：ワタミ、ベルファーレは例外でしょう。私は今後脚光を浴びるべきは、今まで福祉業界で頑張ってきた人達だと考えます。外から新しいスタイルで成功者が出て、今まで地道に頑張ってきた人達が否定されるとおかしなことになる。福祉の若い世代がもっと団結して壁を壊そうという人達が出てこなければ。政治家も同じ。旧来の口利きがまかりとおる状況を壊そうとして、国政でケンカ。何の世界でも世代間闘争はあります。

田代：政治の世界でもそうでしょうが、「国を何とかしなければ」という先生の姿勢にはシンパシーを感じます。将来に不安を抱える若い世代にとって、上の世代に「今がよければいいだろう」という発想が見えてしまう部分は否めません。我々経営者も、現場のスタッフも、中々プロパーからのたたき上げがでてこられない。政治の世界と似ています。



河野：福祉はイチから創り上げるのは大変困難で、既得権ができています。現場の中で「これではいけない」と感じている人がいかに声をあげていくか。一法人一施設だと現状維持という発想が先に出てしまう。現状でやれるのに何でワザワザ・・・と思う方が増えてしまう。やる気のある人が成功する業界にしましょうよ。今のシステムを見直すためには、現場の声を聞いていかなければと感じています。特に若いやる気のある人の声を。

赤間：社会福祉青年経営者会もやる気のある若手が自己研鑽をする会ですが、高齢・障害・保育とその携わる分野も異なり、抱える問題点も様々で多少の温度差は感じます。

河野：分野に関わらず少なくとも先行してできる部分は変えていった方がよいのではないかと。ただ、障害分野においては、障害を抱える方に「かせいで下さい」は難しい。企業に障がい者を雇って下さいと声をかけても雇うより罰金で済ませてしまうところもある。新たにルールを定めても中々現実と合致しない現状だ。このあたりの解決を含めて、自民党が福祉を社会主義の世界から脱却させなければいけなかった。

赤間：個々の命や人生を支えるのは福祉分野で、その原理は忘れてはならないと思う。株式会社と社会福祉法人を同じ土俵に乗せるのであれば、その前にそれぞれの問題点をクローズアップすべきだと考えます。競争原理を導入するのであれば、現在の私どもが持つ福祉に対する使命感など、大事な箇所は守っていただきたい。

河野：例えば保育業界では、「株式会社だと虐待が起こる」ということを言われるが、株式会社どころか、親自身が虐待を起こす現状がある。その原因は何なのか。果たして利益をあげることが虐待に繋がるのか。クーポン制の議論についても、良いサービスを提供しているところに集中してお金を投入していくシステムとして検討の価値はあると考えます。また、国の予算は毎年兆単位で増えている。いくら税金を投入しても待機問題が解消しないというのは現状のシステムそのものが間違っているのではないかと。



赤間：以前の国の案では、クーポンを配布しても保育ではないものに使ってしまう危険もありましたね。

高齢分野では、株式会社が問題のある利用者に直面すると、社会福祉法人にその受け入れを丸投げしてしまうことがある。私たち社会福祉法人は相互扶助の精神で、現行システムや社会にそぐわないレアなケースの問題を抱える対象者も受け入れてきたという自負もあります。福祉分野に参入する株式会社にもセーフティネットの意味と責任を良く理解していただきたいものです。

田代：今の政権は国民受けばかりを狙って「とりあえず予算を配ってあげればよい」と

いう姿勢が見えます。私の身の回りにも給付を単純に喜んでいられる方もいるが、政府は国の財政破綻の可能性をもっと説明するべきでしょう。

河野：子ども手当に5兆3千億の予算がつく。10年で50兆。それだけの予算を配るなら、そのお金で施設を作って待機児童などの解消に充てた方がよいと思う。その方が雇用創出やセーフティネットの拡充にも繋がるでしょう。以前、東京都政で高齢者は公共料金何でもタダという施策にしたら、財政がシツチャカメチャカになってしまった。

赤間：我々国民も予算の在り方についてひとりひとり考えなければならぬ時代になりましたね。

河野：経済成長政党である自民党が明らかに成長分野である福祉を社会主義のままほっておいたのは反省しなければならない。民主党は高福祉をうたっていて明解ですよ。その代わり高負担になります。いまの自民

神奈川県社会福祉青年経営者会役員紹介

平成21年4月より神奈川県社会福祉青年経営者会の会長に赤間源太郎（相模福祉村）が就任し、執行部にも新たな顔を揃えスタート致しました。会長以下、副会長、委員長の面々をご紹介します。

好きこそものの上手なれ。このことわざには、『人のやる気』の大きなヒントが隠されている。誰しも、好きなことや楽しいことには一生懸命取り組めるものだ。今だからこそ我々の活動において、メンバーの「組織活動が好き」「仕事が誇らしい」という気持ちを育み、やる気を高められるよう努力していきたい。

会長 赤間 源太郎
社会福祉法人 相模福祉村（相模原市）



神奈川の未来の福祉を考え、次代を担う若手経営者を育成する目的で設立されたのが、神奈川県社会福祉青年経営者会です。若き経営者や各法人幹部の皆様がそれぞれの熱き想いを結集させ、共に切磋琢磨する場と考えています。今後、2～30代が中心となり積極的に参画し、入会したメリットがある活動になる事を期待しています。

副会長（研修担当） 西山 宏二郎
社会福祉法人 藤嶺会（横浜市）

私は、青年経営者会に入会後、総務・広報委員として数年活動させていただき、今期、赤間会長の下、未熟ながら副会長を務めさせていただいております。青年経営者会では高齢・障害・児童という施設の枠に捉われず、会員相互の交流を深めながら切磋琢磨して新しい時代の法人、施設の経営者として成長できるよう私も学ばせていただいております。今後も色々な活動を通して多くの会員の方と情報交換や交流を深めてゆきたいと存じます。よろしく願いいたします。

副会長（総務広報担当） 藤田 理恵
社会福祉法人 愛慈会（厚木市）



今期より副会長をつとめさせていただいております誠々会の甘利です。去年まで総務広報委員会に所属しておりました。この会に入会し、高齢・障害・保育分野の多くの仲間ができ、指導を仰ぎながら社会福祉について学び、また研修や勉強会を通じて共に成長してまいりました。今年度からは、会長および委員会・部会のサポートをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

副会長（研修担当） 甘利 悟
社会福祉法人 誠々会（厚木市）

今年度より副会長を仰せつかりました喜寿福祉会の田代鉄也です。平成10年に青年経営者会に入会させていただき、さまざまな経験をさせていただきました。多くの友人にもめぐり会い、私自身を成長させていただいた青年協に、微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思っております。メンバーの皆様が活動しやすい環境を作りたいと思っておりますので、ご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。

副会長（総務広報担当） 田代 鉄也
社会福祉法人 喜寿福祉会（藤沢市）



党の中福祉・中負担では何を指したいのか良くわからない。よく言われる与党ボケかな？（笑）

赤間：今はあちらこちらでプロセスが見えずに方向性だけが示されていますね。

田代：自民政権が続いている中で「自民党にまかせておけば安心」という与党ボケが我々にもあった。小泉「ドラスティック」改革にわきすぎて、後続のトップにも同様な期待感を持ちすぎた。地道にやる人、立て直すことの重要性を分かっている人も大事だと今更ながら思います。

河野：党の上の方たちは党内の権力闘争に終始しすぎた。結果、グローバルな問題で言うと、中国が急激に強くなり、コストを下げられない日本は埋没してしまった。官から民への流れは維持しなければ日本はアウト。その意味では小泉改革は至極最良な改革を行った。ただ、規制緩和において、事業規模の小さなどころから手をつけてしまったので、「規制緩和はダメ」という風潮が出来上がり、空港などの本丸には届かず仕舞い。これではスピードのある中国の水泳選手に対して、日本の選手は重りをつけて挑んでいるようなもの。安倍さんは教育や憲法などのイデオロギー改革に走りすぎて経済改革が留まってしまった。今回せつかく負けたので（笑）、自民党を経済発展政党としてつくりなおさなければならないと感じている。伸びる産業をガチガチに縛っておくのはどうか。民主党のようにとにかくお金をつけるという姿勢もどうか。

赤間：ある意味、先生たち次の世代がやりやすくなったのでしょうか。

河野：上の人たちみんな残ったからどうか。（笑）

総裁選も、若手を出して自民党も変わるんだという姿勢をアピールする機会であったのに……。今回立候補したのは、周囲から色々言われるのを抑えるために真正面から手をあげただけで、ある意味「防御の出馬」だったんですよ。潰れかけている会社で社内営業をしてもしょうがないじゃないですか。

赤間：福祉の在り方が変わっていくとしても、私たちは国や県にどんどん意見を言っていかなければならないと思います。

河野：選挙で負けて多少時間が作れるようになったので（笑）、福祉を勉強しようという議員を育てるつもりです。また勉強する機会をつくって下さい。

赤間：立場や環境の違いからやり方は異なっても、現状に満足することなく、もっと福祉を向上させようという思いと到達点は一緒だと思います。本日はお時間をいただき、ありがとうございました。

座談会の前に、「本日は忌憚ない意見を期待しております」と要望したところ、本当に忌憚のない意見のオンパレードで、私どもも多少面喰ってしまう部分もございましたが、今後の福祉の在り方について勉強となる点、気づかされる点多々ございました。

本紙面をお借りして再度河野先生に御礼を申し上げますと共に、先生の今後のご活躍を祈念申し上げます。





私達社会福祉法人は厳しい経済状況の中、利用者の快適さよりも経営の合理化・効率を重視する傾向に大きく傾いており、その事が福祉で働く人材の減少を招く一因になっております。相互扶助の精神で慈善事業から始まった日本の福祉を守る為にも福祉の職場が魅力あるものとアピールできる何かを皆さんと考えたいと思います。

監事 佐竹 昇平
社会福祉法人 聖音会（綾瀬市）

この度監事を務めさせていただくこととなりました清琉会の原田です。本来監事の役割としては、一步離れた立場から会全体の運営を見させて頂かなければなりません、青年経営者と言う能動者の行動を考え、役割と併せ一会員としても積極的に声を上げさせて頂きたいと思っております。

監事 原田 忠洋
社会福祉法人 清琉会（厚木市）



本会に加入させて頂き、多くの諸先輩方のご指導の基今の私があります。「福祉の本質」「経営」「継続」そして「仲間」の重要性。これまで諸先輩からご享受頂いた訓えを少しでも多くの会員の皆様に伝えていければと思います。歴代の研修委員長の名に恥じぬよう精進して参ります。

研修委員長 押川 哲也
社会福祉法人 地域福祉会（逗子市）



福祉施設経営に携わる私どもに求められることは、スペシャリストではなくゼネラリストとしての能力構築だと考えております。青年協にはそのための材料と機会、また模範となる先輩・仲間がおります。お互い切磋琢磨し、経営者としての能力を向上させていきましょう。

総務広報委員長 真壁 洋道
社会福祉法人 真幸会（平塚市）



自法人は横浜市内で、特養（本入所104・短期16）、通所介護、居宅介護支援、認知症GH、小規模多機能型居宅介護、配食サービスを行っております。本会は、将来の福祉をリードする人材としての資質を身につけ、また、横のネットワークを広げ、会員同士が互いに切磋琢磨できる貴重な会と思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

高齢研究委員長 碓井 義彦
社会福祉法人 育成会（横浜市）



長い歴史を誇る保育園の業界にも、少しずつ改革の波が訪れてきております。時代に即した保育所づくりを仲間と共に模索していく。それがこの会における本質・醍醐味ではないでしょうか。ひとりでも多くの仲間と、会の名の通り福祉施設経営の勉強の機会を持っていきたいと願っております。

保育研究委員長 山本 昇
社会福祉法人 山栄会（秦野市）



この3年あまり、障害福祉サービスは障害者自立支援法（新法）と支援費制度（旧法）の二つに分かれています。更に三つ目の制度が政権交代によって示される可能性があります。めまぐるしい変化、不安と混乱が常態になりつつある今日、青年経営者会の存在価値と、参加する意味をより高めていくことが求められていると思っております。

障害研究委員長 萩原 勝己
社会福祉法人 素心会（大磯町）



施設紹介

社会福祉法人 松宝苑 特別養護老人ホーム 湘南くすの木（茅ヶ崎市）

今回で4度目になる施設紹介は当会員である 福)松宝苑 特別養護老人ホーム 湘南くすの木の施設長 山本隆史氏の施設を訪問した。場所は国道1号線より1本山側に入った茅ヶ崎市松林の閑静な住宅街に立地し、地域に役立ちたいという思いから理事長 山本丈男氏により平成18年2月1日に開設された。法人の名前の由来は地名が松林でその地域の宝になればということから“松宝苑”、施設名は湘南在住の理事長宅に薬の木として古くから植えてあるくすの木にちなんで“湘南くすの木”と名付けられた。定員は入居70名、ショートステイ10名、デイサービス25名のユニット型の施設。4階建ての屋上は景色がよく、ガーデニングスペースもある。施設内はとても明るく壁に飾られたたくさんの絵画が優しくほのぼのとした雰囲気をかもし出している。それらの多くは山本施設長のお母様の描いたものだそうだ。さらに目を引いたのはゲームセンターにある大型のゲーム機で、利用者やご家族も楽しめるようにと設置している。



開設当初から事業所として居宅介護支援センターを設けず、地域のケアマネージャーや周りの事業所との協力を得ながらクレームや事故などもしっかり対応し地域との連携をとっている。ユニット型施設についてのメリットは、職員が固定配置なので把握しやすく、部屋が全て個室のため感染症が防げる上に、入居やショート利用も男女を問わず部屋を選択できること。反対にデメリットは情報共有がなく職員同士または利用者との関係が慣れ合いになってしまうことだそうだ。

現在、介護業界の離職率は高いといわれる中、山本施設長は職員採用の面接の際に一人1時間という十分な時間を費やし、じっくり選び、教育担当が現場に入る前の4日間オリエンテーションするというやり方で、湘南くすの木はだいぶ離職率が下がったとのこと。

日本の政権が変わった今、今後どのような福祉体制になるか分からないが、山本施設長はこれまで通り利用者第一を考え、“楽はせず質を上げるためには利用者さんにとって何がよいのか” また“入居されている方が自宅と変わらず本当に安心して楽しく過ごしていただくには職員がどこまでできるのか、そのためには職員一人ひとりのスキルをどのように上げるのか” など、日々努力しながら現職スタッフのキャリアアップも含め事業展開を考えているそうだ。



尚、平成22年には近隣で働くお母さんの力になればと、山本施設長のお姉様が園長となり施設の隣接地にくすの木保育園(定員90名)の開園を予定している。にぎやかな可愛い声につつまれそうだ。

活動報告

20年度事業報告・収支決算承認される 神奈川新聞社社長による講演会を開催

総会

平成21年6月16日（火）キャメロットホテルにて、平成21年度第1回神奈川県社会福祉青年経営者会総会を開催しました。下記議案につきまして、いずれも賛成多数で承認されております。

総会当日の会員数91名、出席30名・委任状23名計53名をもって総会が成立し、議長に水島圭一氏（つちや社会福祉会）が選出され、議事が進行された。

第1号議案 平成20年度補正予算（案）について（武藤祐生氏[愛の森]より説明）

第2号議案 平成20年度事業報告（案）について（田代鉄也氏[喜寿福祉会]より報告）

第3号議案 平成20年度収支決算（案）について（武藤祐生氏[愛の森]より説明）

各案について、議場に諮ったところ、特に意見はなく、全ての議事を終了。その後、総務広報委員長の真壁洋道氏（真幸会）より新入会員の紹介が行われた。

総会研修

平成21年6月16日（火）キャメロットホテルにて、神奈川県社会福祉協議会経営者部会との合同研修会が開かれました。

講師：稲村隆二氏（神奈川新聞社 代表取締役社長）

テーマ：「医療・福祉が地域のブランド・イメージを決める」

神奈川県で新聞と言えば神奈川新聞。今回の研修会は、県内各地域の情報を詳細に発信している、その神奈川新聞社社長の稲村隆二氏をお招きし講演していただきました。稲村氏は、主に経済を担当していたことから、リーダー不在の時代と言われる現在の日本の現状、特に環境問題、市場経済、政治の停滞（劣化）等の課題を丁寧に解説されました。また、医師不足と言いつつ開業医が潰れている現状を例え、システムはあるものの機能していない状況があり、少し運用を変更すれば機能が活用されると提言されました。その様な中で、医療や福祉が充実している地域では、人が勝手に集まってくる傾向が見受けられ、実際、先駆的な取り組みをしている自治体では、人口の増や地価が上昇している。このことから、官民が一体となり既存事業等においても制度を活用し事業の利用価値を上げ、その地域のブランドを構築していくことが大切と述べられました。



会員状況

会員数 98名 法人数 77法人（10月1日現在）

お悔やみ申し上げます

青年経営者会会員で、総務広報委員長を務められた（福）川崎愛児園の鈴木智子様におかれましては、去る8月12日ご逝去されました。まことに哀悼痛惜の念に堪えません。故人のご冥福をお祈り致します。

編集後記

政権が変わり、福祉業界においても大きな変革が訪れる可能性があります。今後福祉の在り方がどのように変わろうとも、私どもは必要とさせていただきます利用者がいる限り、それぞれの施設・サービスを維持供給していくことが最低限の使命だと考えます。そのためにこの会が、より多くの仲間と勉強・情報交換を行うことで、それぞれの揺ぎ無い経営主体をつくるための一助になればと願ってやみません。総務広報委員会も新たなスタートを切りました。2年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。（委員募集中！）

発行／神奈川県社会福祉青年経営者会

連絡先／〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡4-2

神奈川県社会福祉会館内

（福）神奈川県社会福祉協議会
地域福祉部社会福祉施設・団体担当

電話：045-311-1424

Fax：045-314-3472